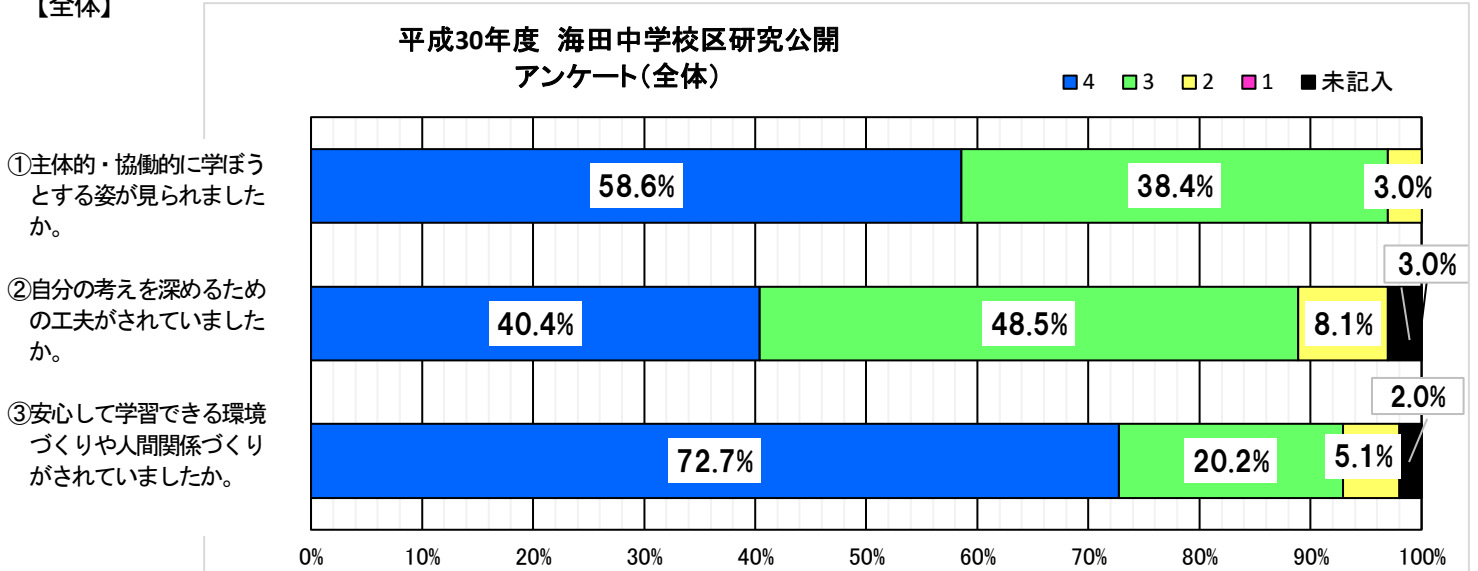


1 質問項目集計

- ①児童生徒が主体的・協働的に学ぼうとする姿が見られましたか。
- ②自分の考えを深めるための工夫がされていましたか。
- ③児童生徒が安心して学習できる環境づくりや人間関係づくりがされていましたか。

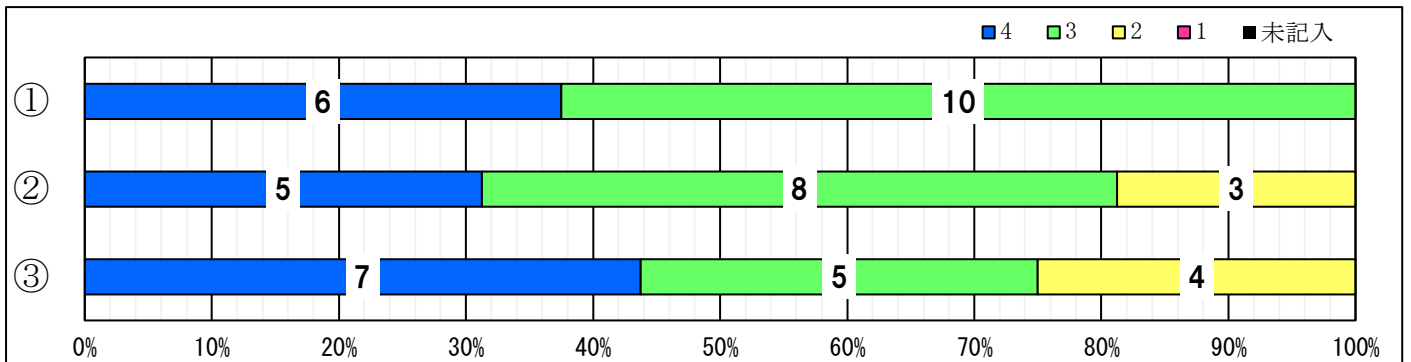
【全体】

4できている 3だいたいできている 2あまりできていなかった 1できていない



2 教科別質問項目集計・記述欄集約

【国語科 東小6学年】



〈主体的・協働的に学ぼうとする姿〉

- 少グループ（3人）という話しやすい環境で活動できていた。
- やるべきことを児童にしっかりと理解させていた。全員が意見をもって話し合いに参加していた。
- 自分たちで「問い」をつくることで、「考えたい！」という気持ちが強まっていた。
- 「問い」について、グループでの話し合い、全体での話し合いなど積極的に行うことができていた。
- 3人グループで質問し合ったり、まとめたり、言い換えたりする中で、話し合いを深めることができていた。
- 児童の実態をふまえた上で、授業の形態を変化させていくところが素晴らしかった。
- 単元のゴールが明確になっていた。
- ▲ 導入部分で、先生が話す場面が多かった。

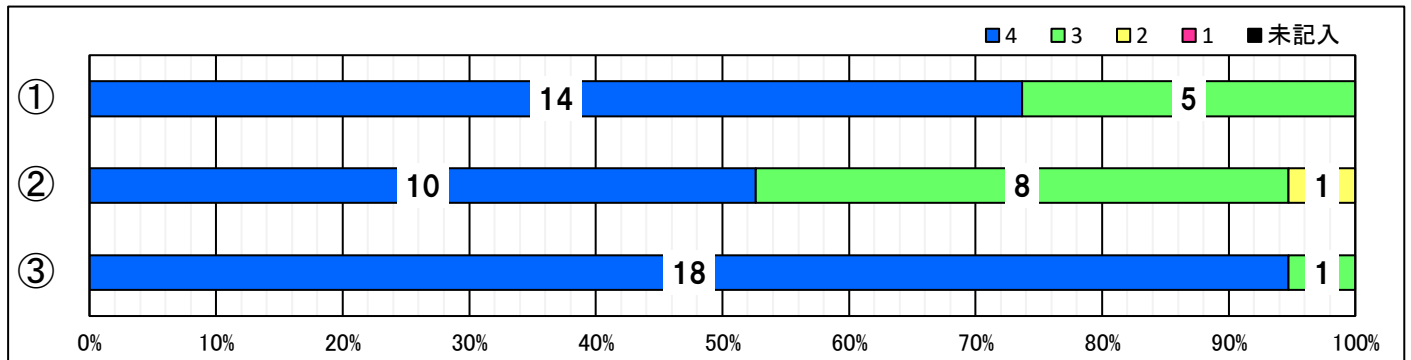
〈自分の考えを深めるための工夫〉

- 言葉1つひとつにこだわらせようとする教師の発問や教材研究の深さ。
- 事前に用意されている本文や掲示物が、自分の考えを深める手立てになっていた。
- 付箋で自分の考えをもつことができていたので、話し合いを進めやすかった。
- 意見を比較・分類したり、友達の考えを知ったりすることで、考えを深めることができていた。
- 理由を考えて発表することにより、考えをより深めることができた。
- ▲ 重要な問いに向かうという視点が、児童に共通理解されていたかどうか分からなかった。
- ▲ 評価する際の視点が示されておらず、子ども達が「なんとなく」で選んでしまっている場面が多くあった。

〈安心して学習できる環境づくりや人間関係づくり〉

- 学習規律がしっかり定着していた。
- グループ内で意見を言い合い、学ぶ姿勢が見られた。
- 前時までの学習の振り返りができる掲示があったので、分かりやすかった。
- 机間指導等で教師が声かけを丁寧に行い、個別の指導を徹底されていた。
- 教師が子どものつぶやきを大切にしたり、個を認めながら声かけをしていた。
- ▲ グループ内での話し合いの際、友達に対する言葉遣い（粗暴な発言）が気になった。
- ▲ 3人での話し合いにもかかわらず、2人で完結するグループが多かった。
- ▲ 児童が発表する際、他の児童が意見を言ってしまう場面があり、もったいなかった。

### 【道徳科 南小6学年】



〈主体的・協働的に学ぼうとする姿〉

- 教師が児童の発言を受け止めて切り返していた。
- 児童が自分の内面と向き合いながら、ワークシートに自分の考えを書くことができていた。
- 児童が意欲的に発表したり、活発にグループトークをしたりして、自分事として考えることができていた。
- 導入のアンケートから、児童が自分事として考えようとしていた。
- 一人ひとりが意見をもち、意欲的に発表していた。お互いによく聴き合っていた。
- 理由をもって積極的に発表できていた。
- よく学ぶ子ども達で、教師の普段の努力が伺えた。
- ▲ 子ども達同士による学び合いまでつながっていくと、より高まると思った。

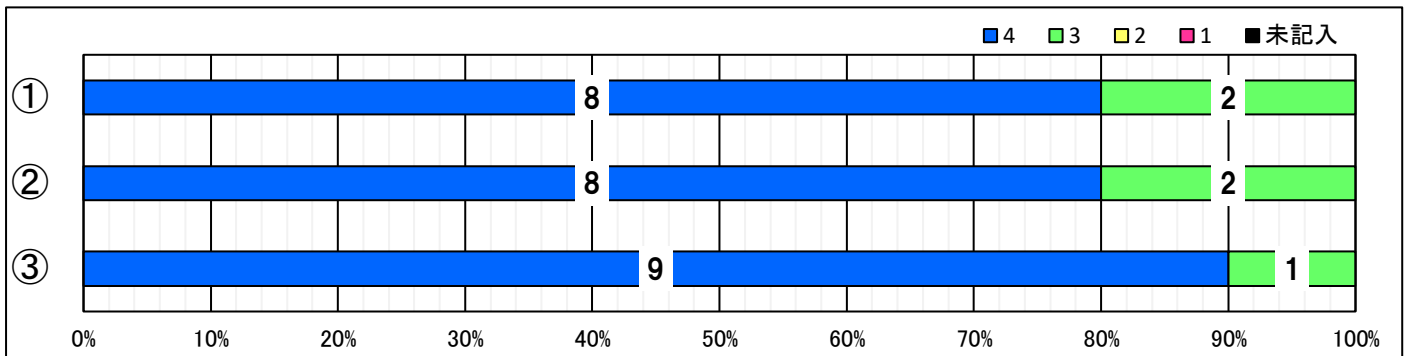
〈自分の考えを深めるための工夫〉

- 学習の流れの分かる構造的な板書がされていたので、児童が板書を振り返りながら考えを整理し、深めることができていた。
- 心情を色で表すなどの手立てが有効であった。
- 切り返し、揺さぶり発問のたびに、児童が具体を詳しく話すことができていた。
- 児童が考える時間を多く作ることができていた。
- ▲ 思いをすぐにもて発言できる児童は深められたかもしれないが、もう少し個人で考えたりグループで話し合ったりすることができれば、さらに深まると思う。
- ▲ 子ども同士の意見でつながっていくと、さらに深まりが見られるのではないかと。
- ▲ 1時間の中で自分の考えの変容がもう少し見えると、自分事として考えやすかったのではないかと。
- ▲ 対話の場面が少なく、考えが深まったとは思えなかった。

〈安心して学習できる環境づくりや人間関係づくり〉

- 学習規律が確立し、児童が発表しやすい環境が整っていた。
- 子ども達を見られる先生の笑顔や子ども達の発言を受け止める姿に、子ども達と先生との関係がとてもよいと感じた。
- 主体的に発言できる子ども達と、その発言を受け止める雰囲気は温かかった。発言の後に、拍手等が自然に起きる雰囲気が素敵だった。
- 多くの児童が、自分の考えを素直に伝え合っていた。
- ▲ 30人もいると大変とは思いますが、机の配置を工夫できるのではないかと。

【総合的な学習の時間 東小5学年】



〈主体的・協働的に学ぼうとする姿〉

- トマトの加工品で作った料理を多くの人に食べてほしいという思いを児童自身ももっていた。
- 単元計画自体が、児童が主となって進めていくものであり、児童の意見が十分に生かされていた。
- グループの人数が3～4人で、班員の意見をよく聞き、内容に応じて質問をしたり、意見を活発に出したりしていた。
- 単元の構成、ゴールのイメージが明確だったため、児童が今、何のために、何をしているかが理解できていた。
- マトリクスに○や△をつけることで、理由を書くのが難しい児童も参加できていた。

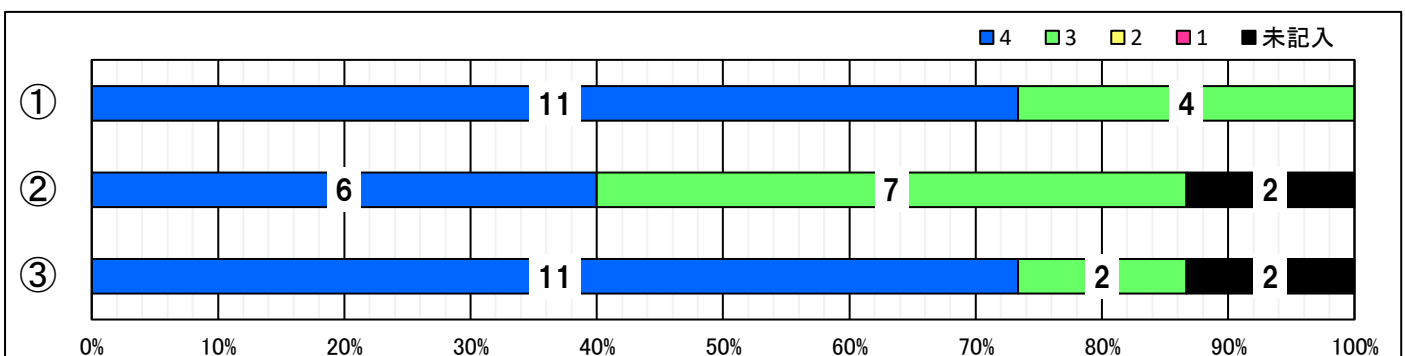
〈自分の考えを深めるための工夫〉

- ゴールに到達するために必要な情報が提示されており、子ども達がそれを参考に学習を進めることができていた。
- 思考ツール（マトリクス）が効果的に使われていた。視点と方法が明確で、記号で表現しやすかった。
- 既習事項の掲示が充実しており、他教科と関連させて考えることができた。
- 過去の先輩のデータやトマト料理の資料があり、児童がより実行可能かについて考えられていた。
- 自分で考えをもち、グループで話し合った後、全体で意見を出し合うことで、自分の考えと比べながら話し合うことができていた。

〈安心して学習できる環境づくりや人間関係づくり〉

- 授業規律がよく、集中して学習に取り組んでいた。
- 話す・聞くの切り替えがしっかりとできていた。
- いろいろな児童から発言があり、「発表しても大丈夫」という安心感が感じられた。
- 「なぜそう思う？」「ぼくはね、～」と互いの意見を言い合える学級経営が普段からなされている。
- 教師と児童の間に信頼関係があるからこそそのグループ活動であった。

【総合的な学習の時間 南小5学年】



〈主体的・協働的に学ぼうとする姿〉

- ゴールとめあてがはっきりしていて、本時の学習が何のためなのか分かった上で、意欲的に学習に取り組んでいた。
- 「保護者にガイドしたい！！」という子ども達の強い意欲が、話し合いの中で感じられ、活発に意見交流されていた。
- 班活動がスムーズに行われ、それぞれが自分の考えの根拠を出すことができていた。
- 「分かりません。」「もう1度言ってください。」「もう少し時間をください。」などと自分の思いをしっかりと伝えることができていた。
- 3～4人のグループの人数配分が適切で、どのグループも意欲的に話し合っていた。
- 見通しをもつことで、主体的・協働的な学びが実現していた。

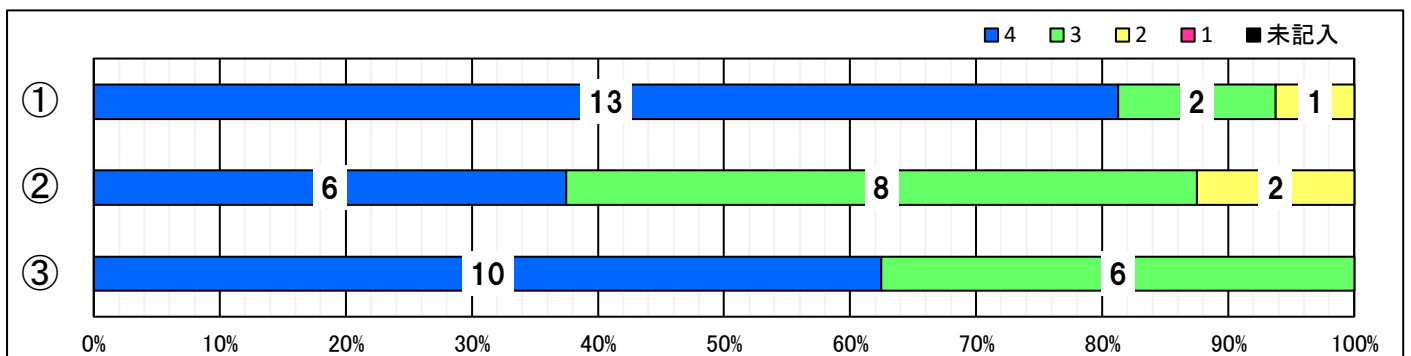
〈自分の考えを深めるための工夫〉

- ワークシートが効果的だった。これまでに情報収集したことをノートにまとめていて、その中のことを話し合いのまとめに使っていた。
- 何のためにするのか、何について話し合うのかが理解できるように、また、見通しがもてるように1問1答にならない工夫がなされていた。
- 子ども達に返したり、子ども達の言葉で言わせて確かめたりすることで、学びが深まっていた。
- ICTや付箋を有効に活用し、児童の意見を引き出すことができていた。
- 児童がお互いの意見をしっかりと聞き取ろうとしていた。
- 個人の調べたことをもとに、グループで共通点や価値の高さについて、理由を明確にしなが意見交流できていた。
- 児童自身から出た困ったことなどを全体に返して話し合うなど、考えを深める工夫をしていた。
- 指導者の的確な指示や発問
- ▲ 最初から根拠を意識させて話し合わせると、もっと深まったのではないか。
- ▲ 1つの内容について、子ども達同士でもっと練り合う場があってもよかったのではないか。
- ▲ グループ同士の交流もあればよかった。

〈安心して学習できる環境づくりや人間関係づくり〉

- 学習規律が定着しており、意見の言いやすい雰囲気ができている。
- 学習計画が提示されていて、見通しがもてていた。
- T1、T2の役割分担ができている。
- 発表する姿勢、聞く姿勢がきちんとできていて、互いの意見を受け止める温かい雰囲気がある。
- 落ち着いた学習態度、お互いの意見を尊重できる学級経営。
- 子ども同士が、自分の意見や思いを、自信をもって述べていた。

【理科 海中1学年】



〈主体的・協働的に学ぼうとする姿〉

- 生徒が興味をもって、自ら実験方法を考え、スムーズに実験し、課題を解決しようとしていた。
- 既習事項が活用され、めあてをしっかりと理解できていた。
- 生徒が自分の疑問を課題につなげ、班で協力しながら学習していた。
- 導入の段階で、生徒自身に課題意識をもたせ、自主的に予想も立てていた。

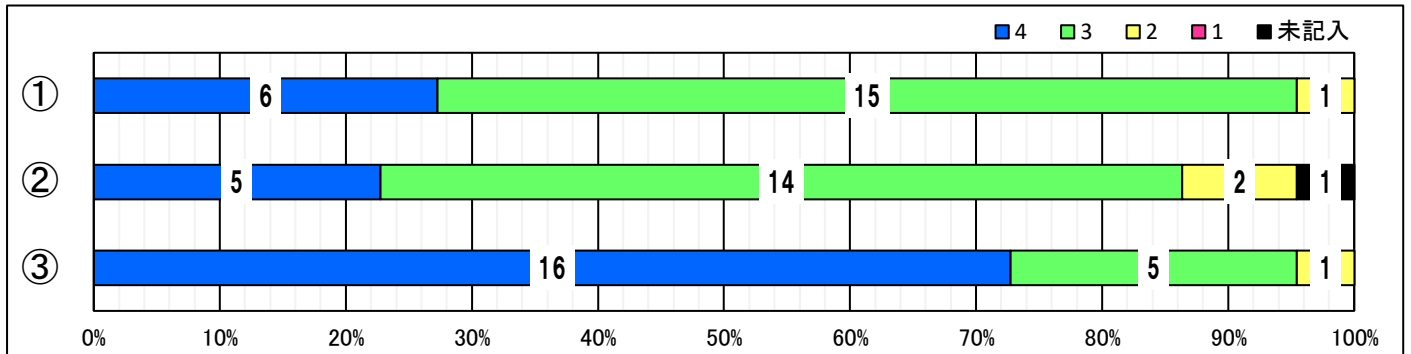
〈自分の考えを深めるための工夫〉

- 4人という調度よい人数で、どんな手順で実験をしたらよいかを考え、意見交流することができていた。
- 既習事項を引き出し、順序立てて考えさせる工夫があった。
- 実験がうまくいかなかった場合の対策を考えさせるワークシート。
- 振り返りを発表する時間があり、全体で共有することができていた。
- ▲ 答えが1つしかなく、答えを求めることに重点が置かれていた。
- ▲ 根拠のある予想ができていなかったため、考察ができていなかった。
- ▲ 考察の際に、思考を深めるという点では物足りなかった。
- ▲ 求めるゴールの姿に生徒がなっていないかった。
- ▲ 本時の内容では、思考を深める場面の設定は難しいと思う。授業の内容ではなく、単元のどこを扱うかをもっと考えるべきだった。

〈安心して学習できる環境づくりや人間関係づくり〉

- 教室環境が整頓されており、実験用具の準備や整理ができていて、実験しやすい状態であった。
- 生徒も実験の用意などを分担してスムーズにできていた。
- ホワイトボードを使用して、グループ協議しやすい環境になっていた。
- 伸び伸びと発表できる人間関係ができており、生徒同士の関わり合いがよくできていた。
- ▲ 実験に際しての安全面の注意が不十分だった。
- ▲ 校舎や理科室の所々にキズや落書きがあり残念だった。

【総合的な学習の時間 海中2学年】



〈主体的・協働的に学ぼうとする姿〉

- 修学旅行で実際に京都に行くという身近な題材の設定があるので、学習課題に必然性が感じられた。
- 前時までの学習を活用しながら、主体的に学ぼうとする姿が感じられた。
- 生徒がゴールイメージをしっかりともっており、既習とのつながりや目的が明確であった。
- 協働がスムーズにいくように班のメンバーも工夫されていた。
- 授業の終わり頃、共通点が見つかった時点で主体的に取り組む生徒が増えたように思う。
- ▲ 本時の授業がなぜなされているのか、その目的を生徒と共有して、生徒同士が目的を達成したことをじっかんでできればもっとよかった。
- ▲ 「めあて」を教師がすぐに提示するのではなく、主体的に学ばせるための課題設定の工夫や生徒から課題を引き出すことが重要。自分達の学習と捉えられているのか分かりにくい反応だった。
- ▲ 生徒に「もっといろいろなことを吸収しよう」「他の考えを知りたい」という意欲が見られるとよいのではないかな。

〈自分の考えを深めるための工夫〉

- 生徒の発問に対して、「例えば?」「どこが?」等と教師の切り返しがあり、自分の考えを深めることができていた。
- 自分の思いや考えを出させた後で仲間と共有させていたので考えを深めやすかった。
- スタートとゴールが可視化されていて、考えやすかった。
- 京都と海田町を比較し、共通点を見付けることを意識されていた。
- グループ内での話し合いを更に全体で広げ、深められていた。
- ワークシートが生徒の実態に合っていた。ワークシートに記入し、グループで協議し、交流し合う場があった。
- ▲ 共通点が必要だったのか疑問。めあて前に、「学ぶ文脈」があってもよかったのではないかな。小学校での学習経験とこれから修学旅行で学ぶ未知のものがつなぐと深まりがあったのではないかな。
- ▲ 話が抽象のまま終わったのは残念だった。話し合いの必然性をもたせる必要がある。
- ▲ ねらいに向けて絞り込んでいけるよう導くことができれば、生きた工夫になったのではないかな。
- ▲ 生徒同士の関わり合いや質問が見たかった。

〈安心して学習できる環境づくりや人間関係づくり〉

- 落ち着いた雰囲気、先生と生徒の信頼関係があることがよく伝わるクラスだった。
- 机、ロッカー、掲示板など教室環境が整っていた。
- 教師の指示が明確で、肯定的で温かく、学級経営の良さを感じた。
- 学習規律がしっかりできており、クラスの雰囲気がとても良かった。学習の基盤となる土台作りができていた。
- ▲ 生徒を指名する際、苗字ではなく下の名前と呼んでいたのはどうかと思う。
- ▲ 教師と生徒が1対1の対話にならないような工夫が必要。

### 3 分科会や研究の内容について

- 講話が分かりやすく、授業に前向きに取り組みたいと感じた。
- 新学習指導要領の話が分かりやすかった。
- 児童が主体的に学ぶためには、まず教師がしっかりと教材研究を行い、目標に合った言語活動を設定することが大切であると感じた。
- 小中学校の連携を具体的にどうしたらよいか考えることができた。
- 子どもの発言から授業づくりをしていくことの大切さが分かった。
- 自分自身の関わりとして考える、児童がもっと議論する授業づくり
- 道徳科学習プログラムが作成されており、全教科・全領域の中で道徳教育が進んでいることが参考になった。
- 道徳は意見を“価値付ける”のではなく、“認める”ことが参考になった。
- 規律がしっかりしていて安心して授業に取り組める雰囲気づくり。児童生徒とコミュニケーションをしっかりととりたかったと思った。
- 自分事としてとらえられるようなアンケートの活用
- 多面的・多角的の意味がよく分かり、テーマを考える際の参考になった。
- 「こうなりたい」というゴールイメージや付けたい力が明確になっていることが主体的に学ぶために重要であること。また、「対話的に」というのは、発言をみんなでつないでいくことが必要であること。
- 研究の方向について理解できてよかった。
- 「地域を見直し、自分達で地域を考える」というテーマがよかった。
- 生活科と総合的な学習の時間の違いについて
- 9年間の学習の流れや生徒指導のあり方
- ノート・プリント・ワークシートの工夫、評価のあり方など、授業準備に対する丁寧な取組
- 仮説→実験→結果→考察の流れ、科学的な見方・考え方を養う理科の専門的な内容が参考になった。
- 学びのドリムプラン、モニタリングの視点など丁寧な単元計画や設定の仕方が参考になった。
- ゴールイメージや課題の必然性のもたせ方が参考になった。
- 「ストーリーから学び、ストーリーを創る」というところが、総合をプロセスを大切にしながら取り組まないといけないと感じた。
- 計画されたカリキュラムと実践されたカリキュラムの修正といったカリキュラム・マネジメントのあり方を考えることができた。
- 主体的・協働的な学びの実現のために、子どもの願い・必然性・目的をはっきりさせることや考えを深めるための問いについて視点を明確にする必要があること。
- 小学校と中学校とのつながり（海田町への誇り・愛着）があること。小学校からの積み上げの大切さを感じた。
- 分科会の時間がたっぷりであり、良かった。他校の先生方と1つの授業について協議できたのは、有意義だった。
- ▲ 分科会の机や椅子が足りなかった。数の確認や促す言葉かけが必要。
- ▲ 付箋が1人につき3枚は少ない。もう少し多めにあれば、良いところも書けた。
- ▲ 模造紙に字を書くので、机の高さを揃えてほしかった。

### 4 研究会全般について

- 分科会ごとに終了する形が良かった。
- 大変工夫され、協議も深まった。会場も整えられ、小中で協働して研究されていることが伝わった。
- 研究発表会ではなく、研修会となっていた。本当に学びのある研究会だった。
- 貴重な授業提案をありがとうございました。
- 授業会場等、環境整備を丁寧にしていただき、気持ちよく授業をすることができた。
- ▲ 準備の際、小中学校間で連携が上手くいってない部分があった。
- ▲ 小中合同で開催するのであれば、夏休み中に推進委員だけでなく、管理職や主幹教諭、教務主任、研究主任と一緒に打ち合わせをする場が必要だと思う。
- ▲ 小中学校職員の相互理解を高める取組を行う必要がある。
- ▲ 子ども達が学校間を移動せず、参観者が移動する等の子どもたちに負担がかからない方法を考えた方がよいのでは。例えば、研究発表をVTRや中継にする等。
- ▲ 授業者は、全体会での研究報告などについて話を聞くことができなかったのが残念だった。
- ▲ 授業の手法について研究していくことも大切だが、土台になる生活指導についても連携することが大切だと思う。小中で協議できる体制ができているので可能だと思う。
- ▲ 町外から参加した者にとっては、どうしたらよいのか迷う案内だった。標示などがもっとあるとよかった。
- ▲ 授業準備や指導案作成等を工夫して、無理のない研究会のあり方を望む。